

界した父を思うと、私のあまえに今で
も悔いが残ります。

それから何年も悩みの連続でした。

多くの本をたよりに、それでも迷うこ
とばかりでした。幼児の心が理解でき
ず、思うように指導できないもどかし

さから、つい小言が多くなり、曇る子
どもの表情にハッとして、オルガンのふ
たに「叱らない」と書いておいたこと
もありました。たまたま風邪をひいた
時にしていたマスクおかげで、幼児
の楽しい声が、かわいいつぶやきが耳
にはいり、一方的に話すだけではいけ
ないことに気づかされることもありま
した。

その後、結婚をし母となりました。
生みの苦しみの後、はじめて見る我が
子にわけもなく感動し、かわいいと思
い、「この子の健やかな成長と幸せの
ためにがんばらなければ」と心に誓い
ました。この感動は、すべての親に通
ずるものと思います。このような保護
者の願いを受けて、幼児をおあずかり
している私たちです。信頼にこたえる
教育をさらに進めるためにも、大いな
る母の愛を心に、一人一人の子どもを
より望ましく育ててまいりたいと思
います。

一年ごとに新しい幼児が入園し、そ
して修了していきます。短い一年間で
すが、私は、この子らに出会えたその
ことに深い意味を感じたいと思います。

この幼児たちのかけがえのない一日
一日、一年のために、幼児期における

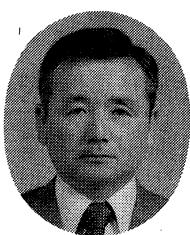
発達課題の達成をめざして、望ましい
経験や活動の選択と配列、児童理解に
基づく指導法の工夫、改善などに常に
留意し、母の愛に通ずる教師の愛に根
ざした、きめ細かな実践を積み重ねて
まいりたいと思います。

豊かさと便利さの中で、損なわれて
いくものが多すぎるいま、健やかなよ
りたくましい児童の成長を願い、研
究するとともに、私自身、教師として
人間として、心豊かに生きる意味を深
く求め、幼稚園教育充実のために努力
していくことが、私の教師としての課
題であると思います。

(飯野町立飯野幼稚園教諭)

努力は光る

上川順一



迎える若いA先生に白羽の矢は立つた。
A先生は、「私はピアノが苦手だし、
みんなをまとめるとなると……」と渋
りがちだったが、そのうち「がんばっ
てみます。応援してください」と快く
引き受けてくれた。

本校では、音楽主任が朝の会で校歌
等の伴奏をすることになっている。最
初のうちは、前奏の部分で失敗したり、
テンポが速くなったり、うまくいって
いるなと思つていると途中で伴奏が消
えてしまつたりの連続で氣の毒なくら
いであった。

五月も過ぎ六月になると、音楽室か
ら聞こえてくるのは本格伴奏となり、
子どもたちの歌声もきいきとテンポ
にのつて、弾んで聞こえてくるようにな
つってきた。

九月に入つたある日の夕刻、ひとり
職員室で仕事をしていると、「エリー
ゼのために」の美しいメロディーが胸
にしみこむように流れてきた。「だれ
だろう」と出勤札を見るとどうもA先
生らしい。しかし、まさか、と思うほ
ど美しい。思わず立ち上がり音楽室
に行つてみた。やはりA先生だった。

「もう一度聴かせてください」とお願
いすると、恥ずかしそうに、それでは
と言つて軽快なタッチで弾き始めた。
四月のころの指づかいとはまるで違つ
ていた。別人を見ているようである。
思わず「すばらしい上達ぶりですね」
と声をかけると、「今年の夏休みは、
ピアノがお友達でした。今はこの曲を

練習しています」と「銀波」も聽かせ
てくれた。私は一驚すると共に「継続
することは力であり、努力は必ず光る
ものだ」ということばをしみじみと噛
みしめていた。

「教育の目的は、各人が自己の教育
を継続できるようにしてある」とデュ
ーエイも言つてゐるが、これは、
真理を抽象的な思惟によつてではなく
実生活の中での経験によつてとらえる
という立場をとつてゐるものと思われ
る。

まさに教える者、つまり指導者は社
会の進歩に遅れることなく、教育に貢
献するために、自己を継続的に向上さ
せなければならないのである。A先生
のひたむきな努力のあとに、私はその
言葉を見い出した。

A先生の姿には、もう、四月当初の
おぼつかなさはどこにもない。教える
ことへの自信さえ感じさせてくれた。
今、A先生は県下小中学校音楽祭第
二部への出場をかけて、全校生五十九
名の合奏を指導している。その姿は自
信に満ち、子どもたちも本気になつて
演奏に取り組んでいる。

臨教審が「教職員の資質の向上」を
打ち出してきたこの秋にあたり、A先
生のように努力する先生と学習できる
子どもたちはほんとうに幸せだと思
うこのごろである。

(いわき市立久之浜第二小学校教頭)